

十二、清代

一、清初の社会と思想

一六四五年、清軍の侵攻、南明・弘光政権崩壊。明朝は終末に向かい、江南士大夫社会に衝撃を与える。

・「清初の三大家」

一・一、〔¹〕 ……朱子学にしたがう。陽明学左派の流行を批判し、經書を中心とした読書博覧に努めることにより、実証的な学問を行うことを主張。古代の音韻の復元を清代で最初に試みる。主著に『天下郡国利病書』『日知録』『音学五書』など。

一・二、〔²〕 ……陽明学の流れをくむ。清朝の『明史』編纂に間接的に協力。「浙東史学」の創始者とされる。明代の學術史『明儒学案』や『宋元学案』を著す。聖天子の出現を前提としつつも自身の政治的理想を記した〔³〕。〔⁴〕の中には、一種の民本主義を見出すことができることから、

一・三、〔⁵〕 ……明朝復興運動に参加。朱子学にしたがう。主著に『周易外伝』『読通鑑論』。それぞれ「經世致用」を唱える。顧炎武・黄宗羲は〔⁶〕。〔⁷〕の開祖とされる。

・顔元・李塋（顔李派）…「理氣論」を排し、「六芸」を中心とした実践により古代の儒学の復興を唱える。
・朱子学の復興…順治・康熙年間には明代以来の朱子学・陽明学が思想界において主流を占める。
・考証学のはじまり

〔⁷〕 ……『尚書古文疏証』において、東晋の梅賾が献上してはじめて世に現れたという『古文尚書』および孔安国注は、梅賾の偽作であることを証明。大きな反響をもたらし、賛同するものも多かった。のちに、「考証学の開祖の一人」と位置づけられる。

〔⁸〕 ……『古文尚書冤詞』において閻氏の学説に反論、『古文尚書』を弁護。
このほか、胡渭『易図明弁』、姚際恒『古今偽書考』、朱彝尊『經義考』など。

二、考証学の世界

〔⁹〕 ……一經書に対する文献学的研究を重視。「实事求是」という言葉を掲げ、學問の主流として一世を風靡。漢学（鄭玄・馬融によって集大成された古文經学）を尊ぶ。

〔¹⁰〕 ……蘇州を中心とする。

惠棟…祖父の恵周惕・父の恵士奇から承け継いで、鄭玄などの漢代の經学者の學問を祖述し、その輯佚・整理・再解釈につとめる。主著に『九經古義』。

〔¹¹〕 ……安徽省南部出身者を中心とする。

江永…朱子学を信奉。曆算・音韻・地理の研究を深め、直に經書の本義に迫る。

礼学を重視（『礼書綱目』）。『近思錄集注』（『近思錄』の注釈書）を著す。

◎〔¹²〕 ……天文学・数学・車制の復元などの科学的知識を經書解釈に応用。

〔¹³〕 ……の編纂にも参加。朱子学を批判。儒学の基本概念を再吟味。孟子を孔子の真伝を得ているとして称える。主著に〔¹⁴〕。

〔¹⁵〕 ……許慎『說文解字』に注釈を付す（『說文解字注』）。

〔¹⁶〕 ……吳派・皖派双方の影響を受ける。文芸方面にも業績をあげる。

◎〔¹⁷〕 ……「十三經注疏」に校勘記を付す。『皇清經解』を編纂（清初から乾嘉に至る經書研究の集大成）。考証学専門の書院である学海堂や詁經精舍を創建。

〔¹⁸〕 ……『經義述聞』『讀書雜誌』『經伝釈詞』（校勘の頂点）。

・浙東地方—史学に重きを置く（「浙東史学」）。

〔¹⁹〕 ……黄宗羲の流れをくむ。

〔²⁰〕 ……「六經皆史」など独創的な史学理論を展開。主著に『文史通義』（322頁）

・北方

紀昀…『四庫全書總目提要』をまとめる（309頁）。

崔述…上古の史実や孔子・孟子等の事績の真偽を厳しく弁別した『考信錄』を著す。

〔²¹〕 ……文壇の巨大勢力。考証・文章とともに朱子学による義理を重視。

三、漢宋の対立から調和へ

- ・〔22〕「…桐城派の姚鼐ようだいの門下、阮元の幕僚。『漢学商兌』において本来の軌道を外れた（と思われた）考証学に対して批判を試みる。」
- ↓〔23〕「（朱子学と考証学の学風を調和させようとする）が主流に。」
- 〔24〕「…朱子が漢儒の学問を尊び、鄭玄とも通じる面が多く、また漢儒の性・天道観も宋学と近いものがあると論証。漢宋の学が相補の関係にあると主張。主著に『東塾読書記』。」
- ・〔25〕「の復興と展開：孔広森・莊存与・莊述祖・宋翔鳳・劉逢祿ら。」

四、清末の思想―「漢学」から「国学」へ

- ・〔26〕「…太平天国を鎮圧し、欧米の科学技術を導入し、近代化を図ろうとする」
- 〔27〕「…を開始するなど、「同治中興」に功績をあげる。」
- ・〔28〕「…詁経精舍を主宰、章炳麟ら多くの優れた門人を育成、諸子学や小学研究に重大な貢献を果たす。主著に『群経平議』『諸子平議』『古書疑義举例』など。」
- 〔29〕「…地方官として大規模な叢書の編纂を行う。阮元にならない、『南菁叢書』『皇清経解続編』を編纂。後に長沙の岳麓書院を主宰して湖南に公羊学を含めた考証学的気風を盛んにする。」
- ◎〔30〕「…湖南の公羊学者、王闓運おうがいうんの門人である廖平りょうへいの著作を読み、公羊学に向向。『新学偽経考』『孔子改制考』は「問題作」として当時の社会に衝撃をもたらす。孔教会を組織、西欧諸国がキリスト教を国教としているのにならない、儒教の国教化を主張。」
- ・〔31〕「…西洋の影響も受けつつ幅広く伝統学術を「国粹」として考究する学問。現代新儒家―朱子学・陽明学にならない新しい哲学体系を構築。馮友蘭、熊十力、梁漱溟。」
- ・梁啓超：康有為の門人。主著に『清代學術概論』。
- ・胡適：「国故整理」を提唱、国学研究の先鞭をつける。
- ・顧頡剛：『古史弁』『学衡』といった學術誌を中心に活躍。古史弁学派。

【参考】「十三經注疏」：經書十三種の注・疏を集めたもの。漢唐（北宋）の注・疏を主とする。

- 『周易』（王弼・韓康伯注、孔穎達疏）
- 『尚書』（孔安国伝、孔穎達疏）
- 『毛詩』（毛亨・毛萇注、鄭玄箋、孔穎達疏）
- 『周礼』（鄭玄注、賈公彦疏）
- 『儀礼』（鄭玄注、賈公彦疏）
- 『礼記』（鄭玄注、孔穎達疏）
- 『春秋左氏伝』（杜預注、孔穎達疏）
- 『春秋公羊伝』（何休注、徐彦疏）
- 『春秋穀梁伝』（范寧注、楊子助疏）
- 『論語』（何晏集解、邢昺疏）
- 『孟子』（趙岐注、孫奭疏）
- 『孝經』（玄宗御注、邢昺疏）
- 『爾雅』（郭璞注、邢昺疏）

